礫陵新聞

発行所
若松高校新聞部
福岡県若松市小石
発行人 大屋啓吾
編集人 安田正宏
印刷所 西日本新聞社

筆はおきな筆
魚重文房具店
各種文房具
若松市西新町
電話3045番

立太子礼に寄せるメッセージ

立太子の禮をお祝いして

校長 森本鉄之助

独立日本の秋空高く晴れ菊の花薫る今日の佳き日、ここに皇太子殿下の御成年式並に立太子の礼を挙げさせられることは八千万国民の等しく歓喜に堪えないところであります。

さてこの度の御成年式は昨年行わせられるはずでありのましたが貞明皇后の服喪中ために、また立太子の礼は終戦後の内外の諸事情によつて今日まで延期されて居りました。この議式の中の加冠の儀（成年式）宣制の儀（立太子の礼）は新憲法に基づく初めての皇室国家の重要儀礼であつて皇太子様が日本国の象徴日本国民統合の象徴としての天皇の後継者に正式におなりになる御慶事であります。両陛下の御満足とお歓びの程お察し申し上げますがまた全国民は固より青年学徒諸君の感激もまた一入であろうと思います。

皇太子様には昭和八年十二月二十三日今上天皇陛下の第一皇子として御誕生、御名を明仁、御称号を継宮と申し上げ、現在学習院大学の政経部御在学中でありますが聡明で仁徳高く明朗な御人柄と承ります。英語に御堪能、乗馬の術は最も御得意にあらせられ、その他色々の運動を好まれ生物の蒐集に御趣味を持たれて居るようであります。長い間皇太子様の英語教育を担当して居たヴアイニング夫人の『皇太子のための窓』と言う意によつて皇太子様がどんなお方であらせられるかを知ることが出来ます。その中に『私は天皇にならなければならない』と明確にお答になつて居ります。更にまた先日新聞記者が今回の儀式を迎えられるに当つての皇太子様の御感想をお尋ねした時に殿下は今後の責任の重大なことや日本の繁栄と世界の進運のために努めたいこと また将来は更に一層勉強を続けて知覚を広めたいこと等の御抱負、御決意を述べられて居た記事を読んで私はその高邁な御識見と強固な御覚悟に対し敬服とたのもしさの念を禁じ得ませんでした。今や我が国の前途遼遠、内外共に多事多難の時に当つてこのお芽出度い盛典をあげさせられたことは国家的に洵に重要な意義を有つものであります。私達はこの佳き日を心からお祝いし、皇太子様には心身共にいよいよ御健康にわたらせられて若い日本を代表する象徴となられるように諸君と共にお祈り申します。

委員長に辻君當選

副も再選にて決定す

去る十月十三日に行われた生徒会新委員長並びに副委員長選挙は新委員長には辻君が若松君を破つて当選、副委員長は投票されたまま生徒会側と職員会との了解事項の連絡不十分のため話が折り合わず一時はかなり難行の気配もみられたが、結局はそのまま持越され改めて副委員長には男子一名、女子一名として選出することに落ちついた。

再投票は十月三十一日に行われ新しく採用された投票方法によりクラス単位に各ホームルームで投票を行い開票の結果二年の波多野君が六百六票で一年の井上君を百票余り引きはなし、松永さんは七百十一票でこれも一年の市川さんを三百余票の差をもつて破り、それぞれ新副委員長に決定した。

また生徒間に大きな反響を呼び起したこの副委員長選挙の投票成績は在席数一、二七四人に対して棄権三十七人（欠席者を含む）無効投票六九票即ち有効投票の投票率九一・六％という数字が出ており学年別では一年生が最も成績よく百パーセントのクラスが六組もあるという状況である。棄権投票が六十九票もありその中で白紙やいたずら書きの多いのはまだまだ全生徒の選挙に対する正しい認識が行きわたつていないあらわれであるともいえると選挙管理委員会ではもらしている。

なお新委員長辻君、並に副委員長波多野君、松永さんの新任挨拶は前委員長浜崎君の退任の挨拶に引きつづき北校運動場で行われ、ここに今年十一月から来年度の十月までの生徒会新委員長は正式に発足することになつたのである。

（写真上から委員長辻君、副委員長波多野君、松永さん）

論説

新委員会へ期待する

時の流れは早いものだ。現三年生の卒業も目前に迫り学校自治もいよいよ二年生の舞台になつた。とやかく問題になつていた新委員長選挙もどうやら副委員長選出により落着いた様子だが、より問題にせねばならぬことは新生徒会の来るべき一年間の運営である。若高生徒会発足以来、発展の一途をたどつて来た学校生徒会も、どうやら双葉から本葉を出して漸く青年期に入ろうとしているこの一年間の運営は、今後の成長を左右する意味において、重大な時期であると考えられる。今までは単に無事に一年間を経過しさえすれば、それで責任を果すことができたがしかし今年こそは幼年期から青年期へと飛躍するポイントである。それ故マンネリズムに甘んじてはいられない。近ごろ特に感ぜられることであるが、漸次、生徒から学校への本来の生徒会は失われて学校から生徒への生徒会になりつつある点、それに関連して全校生徒の学校自治への関心の低下、など熟考すべき問題は多い。生徒の力による生徒のためのものとするには当然各学級を中心とした会合、話し合いを数多く持つべきである。その唯一の機関たる、ホーム・ルームの時間が二年生、一年生に失われたことは生徒会不振の最大の原因と考えられるし、生徒の総意に基くことなくホーム・ルームの時間が失われたことは大きい問題と疑問とがある。学年委員会も不振の状態にあるのも全く残念である。現状の如き学園では到底われわれの理想とする学園は生れるはずはないしそればかりか与えられた自由を自から捨て去る結果にもなりかねない今更、前年度の徒にその責任を追求したところで無意味であるから、ホーム・ルーム復活の問題は今年度の委員会に大きな期待を掛けて見守つている。次にもう一つ、委員会は文化祭、運動会等ばかりに力を注入するだけがその任務ではないのだ。もつとこの学園全体を勉学する学園にするために関心を持ち努力せねばならない。できるだけ全校生徒がよい条件で勉強できるように活動してもらいたい。勉学こそは学生の本分である。全校生徒の意志として生徒会が学校に提案すれば決して否定される道理はないのだから、どしどし決議したことは提出して欲しい。冬も間近に迫つて、上ばきの件、外套の件等問題は手近いところに山積している。こう考える時決して今年度の生徒会の行くべき道は並大抵のものではあるまい。しかしわれわれは自らの手で選んだ代表者に期待と不安とを持ちつつ見守つているのだ。大きく伸びて行かねばならぬ生徒会のためのそのキーポイントを握つている今年の新委員諸子よ、頑張つてくれと叫びたい。

時の焦点

世論機関と世論

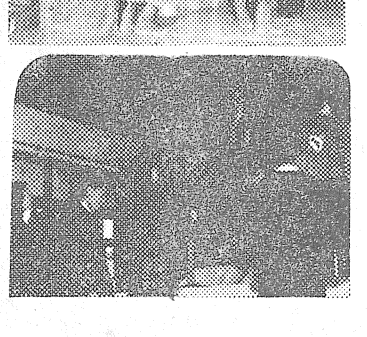
民主政治が民衆の世論に立つて行われねばならぬということはイロハの部類に属する。ところがその世論の所在を把握することは至難のわざと思われる。通常その役割を担うものが新聞ラジオその他のマスコミニユケーシヨン（大衆伝達機関）であることも、いわば公然の秘密となつているようだ。ここでとくに『秘密』というのは元来マスコミニユケーシヨンによつて提供されるニユースが極めて抽象的、創意的産物であるにも拘らず、一般にはそれが具体的、真実性に貫かれていると信ぜられているということを意味する。このマスコミニユケーシヨンが、国民の政治的運命を決定する総選挙になると、一せいに『世論創造機関』として立表われ、それが『世論』の動向であるとの決定を読者に送ることによつてその役割を完了する。普通日本の新聞社などが行う世論調査の方法は任意抽出による個別訪問によるものだが、この方法が世論の動向を明確につかみ得ないという事はいうまでもない。概して日本の新聞の選挙予想はよく当るといわれているが、これは支局の記者が地元を打診して、地盤関係を新聞人の勘と足で歩いて報告してくるので大体に、おいて正確だという日本の特殊事情からくるものらしい。ところが米国のような広大な地域で、しかも大統領選挙といつたような大きな選挙になると、世論機関がどのように血道をあげて奔走しても所詮かなわぬわざに終つてしまう。それをしもその誇る近代的設備と資本を大動員してまことしやかな世論を把握に挺身しようとすれば思わぬ笑いものになつてしまう。今回の大統領選挙における、世界最大の世論調査機関ギヤラツプホールの失態がそれだ。毎月末に発表していたアイクかアドレイかの人気調査は終盤になるにつれて毎週末に発表されてきたが、いよいよ投票日を二日のさきに迎えた十一月二日の最終的予想では、両者の差はわずかに一%で、あと未定の一割が当落の鍵をにぎるととばした。ところが蓋をあけてみると、アイクの圧倒的勝利に帰してアツケナイ幕切れとなつた。日本のインテリ層の中にはそれまでの予想からアドレイの当選を心ひそかに期待したむきもあつたようだが、その反動でもあるまいが、アイクの当選を祝うよりはむしろ『勢力伯中』を喧伝しつづけたギヤラツプへの憎悪と罵倒を表明しているようだ。前回の大統領選でも共和党のデユーイの圧倒的勝利をつげた同ポールが、トルーケンの再選を『大番狂わせ』と逃げすましていただけに今回の失態はもはやとりかえしのつかぬものになりそうだ。いやしくも世論の所在を究明して民主政治の基礎たらしめんとする以上は地についた。民衆の心にくい入つた方法を考え出すべきでありその努力をしないならば、その責務の重大なるを感じて、『ギヤツプよギエラウエイ』（よ）

学級増加

來年度には實現か

新教育制度が施行されて以来、来春はもう四度目の新入生を迎えようとしているが、本校については前々からいわれながら県の予算の関係上実現されないまま今日に至つていた学級増加という問題が市長、市議会、市教委会等の手によつて具体化されようとしている爾来本校は一学年につき四百名八学級が定員であつたのが中学校側の要請により一割四十名の超過入学生が認められていたのであるがこの定員を超した生徒数のため先生方の負担は大変大きいものとなつていた。それで本校においては来年度より採用生徒数は定員を百人にとどめ超過採用を行わない事に決定、その由を市内中学校側へ通告した。驚いたのは通告をうけた中学校側でこれに対する対策として先生方の負担が大きくなるという本校側の意見をも容れてここに前記市教育委員会を中心に若高の学級増加に関する委員会を組織これに本校側も協力するという形で森本校長、瓜生教官等を委員会に送つて県議会工作においても地元久野、古長両議員が活動しており漸くここにこの問題も日の目を見ることになつた。十二月に行われる県の予算委員会に間に合うように福岡県立若松高等学校生徒並に教員定員数増加に関する陳情書を県知事、県会議長、県議会文教委員長、県学務課長宛に送付したもしこの問題が実現すれば本校生徒数は定員四百五十名九学級に教員定数も二名増加が認められる訳であり、来年度以後の高校進学希望者に対しても一沫の光明となる事は間違いない。なお今後も今まで通り一割増加入学を認めることについては瓜生教官の弁によると先方針通り認めないということである。

× ×



文化祭終る

反省したい……観衆のヤジ

去る十月三十一日、十一月一日の両日にわたり例年の如く校内文化祭が催された。第一日目は父兄会を兼ね、演劇部による演劇発表会及び展示会が行われた。第二日目は本校生徒を主体として催され午前中は主に演劇の観覧に過ごした。ヤジが多いのは例年のことながら観衆はもう少し自覚すべきである。展示会は昼休みに見たていどで、たいして振わなかつた。比較的注目を浴びたのは図画、書道ぐらいのものであろう。目新しいものとしては午後に行われたフアツシヨンシヨーていどであつた。演劇では『修学旅行』が好評を博した。なお徒手体操は行われなかつた。（写真は二年生の英語劇㊤と家庭クラブの服装展㊦）

模型教材各種
島津模型店
本町三丁目

久野奨学資金

受付始む

前号既報の久野奨学資金の設置は、そのご委任者吉田敬太郎氏のもとに設けられた久野奨学資金奨学生選考委員会において、細目が審議中であつたが、このほど決定され、学校当局にその旨が通知されたので、去る十八日より奨学生の募集受付を開始した。なお金額は一人一ケ月五千円で卒業まで総額二十四万円の資金が支給される。また応募者は十四名である。

三年生の新時間割決る

三年生の新時間割は、来月十二日より実施される。それは進学者就職者により効果的に授業を受けさせるために進学者は受験に必要な課目のみを選択することが出来従つて週十二時間以内のブランクが許される。同様に就職者には、珠算、タイプ、書道等の実用面の課目が選択出来ることになる。

また、単位認定についてはいろいろな方面から考慮され現在、単位規定委員会において草案中であるがどちらにしても三年生の単位が二学期で決定するということはなさそうである。

なおこの件については一日の運営委員会、五日の職員会で決定されるはずである。

前進

▼副委員長問題もどうやらおさまつて本年度の委員長副委員長が正式にきまつた▼だがおさまらないのはこちら選挙民たる全校生徒である▼一体今度の立候補者達はわれわれに候補者としての生徒会に対する意見の何を話し何を語つただろうか▼次にこれも選挙演説の問題ながら副委員長再選の際二年女子より松永さんが立候補したが、選挙民達は彼女の選挙演説どころか顔さえ見ていない。それで当選したのだからおかしな話である▼これも同じ幅委員長再選の際の選挙方法であるが、教室で即座に赤印つきの投票用紙に○をつけさせてそれをそのまま選挙結果としているということである▼若し本当に公明正大なる選挙というものが立候補者は選挙民に対して自分の意見を堂々と発表し、その上で一定の個所で不正なく行われる選挙民の判断に任せるものとすれば、今度の若高の選挙位にべらぼうでかつ非民主的な選挙方法は世界のどこにあるだろうか▲立候補者は演壇にたてばしつかりやりますといつて頭を下げたのみでひきさがる。しかも彼等の言葉の中に何もわかりませんがという言葉があつたのはこれまた奇妙きてれつこの上もない。一体何もわからない人間が委員長や幅委員長になつてどうする気だろう▼しつかりしなければならないことは確かだが〝何もわかりません〟ではまるで今度初めて生徒会というものが誕生するようで頼りないことこの上もない▼応援演説者がいくらごたくを並べてみてもそれは結局候補者の心如何にかかわるものである▼このような候補者各人のこともともかく今度のような妙な選挙方法をとつたのは明らかに選挙管理委員会失敗の巻である▼それに候補者自身ももつと考えを深くもつてわれわれ生徒会を盛り育て前進していこうではないか（K）

進歩している技術

―國体を顧りみて―

多数の見送りの中を十月十五日のたそがれ小倉駅より国体列車に乗込む。部別の座席には各種の職業人が学生と同席しスポーツマンらしい明朗な空気は車中に充満し、一種見られぬ乗車風景は初参加者にとつて印象深きものであつたと思うできうれば高校生は一つの車両にまとまつて行つた方が総ての点においてよいのではないかと考えさせられた。自分達陸上部男子二九名女子九名の一行は仙台市の戦災を逃がれ繁華街より遠く離れた東八番町の旅館に落着いた。陸上部は例年好成績により出場者全員自重団結、到着の日よりスケジユールのもとに規則正しい生活が始められた。夜は十時就寝、朝七時起床、一般人生徒の同宿に対する心配も往年学生界に名を鳴らした優秀選手ばかりでスポーツマンとしての自粛自重の行動は生徒として教えられる点が多かつたと思う。陸上福岡優勝は各自の闘志と自粛、部の団結によつて得られたものと確信する。ほとんど毎年国体に参加して来た自分としては今度の仙台における開会式はわれわれ参加者に物足りなさを与えた。両陛下の御来場の下に行われた入場行進は相変らずあわない、歩く姿勢の悪いのかリズム感覚のにぶいのか見る者、歩く者全体が感じのよい行進を味う日はほど遠いように思われた。服装はまちまちで神奈川県のカッターシャツ役員の揃つた籃の服は今なお眼の底に焼きつけられている。服装の統一は経済的なものが伴い困難性がある程度各県で工夫話合いでまとまるのではないかと思い集団の点を観衆の前に展開される事を望んで止まない。自分は競技第二日目に出場し全力を挙げ若き日の感激を新たに奮闘したが体力の相違如何んともしがたく入賞できず期待に副うことのできなかつた精神的寂しさをひしひしと感じたが、今日のこの日のため精進努力して来た過程を考える時自己満足的な溢きものを自分に与えてくれた。後は上甲君の奮闘を念じ共に行動をなし同僚激励のため毎日グランドに足を運んだ。期待した上甲君も『ものもらい』のため片目で跳ばねばならぬ不運に禍され実力を発揮することのできなかつたことは彼の心境を思い己の敗退以上の淋しさを痛感し同情の念禁じ得ず悲愴な奮闘の姿を瞼に焼きつけられている一面同僚の健闘により著く得点を挙げ特に肉離れをおして百米に第一位をかち得ゴールと共に歩けなくなつた山内君の責任感と満々たる闘志はスポーツマンとして賞賛に価する身近かな一コマであつた同じ仙台市で行われた競技は卓球、バドミントンを一時間余り見たが、技術的の進歩は大で応援の態度も良好できれいな拍手が会場に響いていた。新聞紙上に選手の態度行動について悪評が記載されていたが、自分の見た範囲では実に立派でスポーツマンスピリットを発揮し試合はもちろん普通の行動にもそれがうかがわれ頼もしく思われた。観衆の態度も立派で競技するものに充分の力を出させ心からわれわれを歓迎していてくれるようであつた。特に小学生が激励の文や絵をもつて宿舎を慰問し東北弁と九州弁のなごやかな交歓は忘られぬ一つである。まとまりのないことを書いているうちに紙面も無くなつてきた、書きたいことは数多くあれど後日にゆずりただ参加のできた喜びと参加の結果もたらされた数々のことをわがものとして生かしてゆくと共に、声援を心から感謝してペンを置くことにする。（筆者は白木教官）

皆様の投稿歓迎します。匿名も可、原稿は返却致しません。

上級生に対する礼儀

戦時中までは極度的に励行されていた学生の上級生に対する礼儀が現今は今まで何回となく叫ばれたにもかかはらず依然として行はれていない許りか一層悪くなつたようだ。

女性の鑑といはれた日本女性の卵でさへも一例をあぐれば、レデイファストとはいへ上級生を押しのけたり、はては二三の輩が人の顔を盗見て侮辱的嘲笑的態度等を見ては愈々彼等の前途を憂うるものである。

如何なる事情においてさえも飽まで暴力が否定される今日地団太踏んで口惜しがる猛者達を尻目に挑戦的な態度をとる二年生男子、男子上級生の目の前で明らかに情そう感覚のない態度を見せる女子……

人格のどうのこうのはぬきにして一応は上級生として尊敬の真似位はすべきである。他入がしないからといつて自分も……では余りに編見的、他入のしないことをやつてこそそこに進歩があるのだ。

図書室から

礫陵新聞第二〇号の図書館の利用に関する記事について一言申します。あれを読みますと本校の生徒は映画雑誌や、写真雑誌ばかり読んで文学書は猫に小判ほこりをかぶつて古本屋の店先云々。Ｋさん貴方はきつと、お昼休みの一番忙しい時に御覧になつたのでしよう。ただその時だけで図書館の読書の傾向云々するのはゆき過ぎではないでしようか？十分休みや昼食時にはとても修養書や、古典書を読むのは無理だと思います。映画雑誌や写真集等目で見て楽しめば結構です。これは悪い読書欲ではないと思います。本校の図書館は全国高等学校図書コンクールに入賞した県下でも、優秀な図書館ですからこんな図書館を持つている私達は幸せです。私達の図書館は、皆さんによく親しまれ、よく利用されています。決して前号の記事のような事はありません。

（図書子）

諸君奮起せよ

快晴にめぐまれた若戸対抗競技も男女共に本校が栄冠を獲得し、断然強味を見せた。また演劇コンクール第一位という輝かしい成果をあげ運動に文化方面に現在本校のレベルが向上しつつあることは喜ばしいことである。この意気で学力の向上にも努力したならば、今一層の発展をすることであろう土地的に言つても条件が悪く刺激のないと言われるのは最もな事であるが、そういう事は問題ではなく、各入の努力と奮起によつて、よくもなり、悪くもなると思う。諸君、奮起して本校の栄ある伝統をきずきあげて行こうではないか

（二年Ａ・Ｋ）

二君表彰さる

三年田中、矢坂の両君

勉学に励むかたわら家庭の手助あるいは弟妹の面倒をみてそのたゆまない努力とその善行が明るみに出て本校の三年生の田中忍君、矢坂吉男君が青少年の模範とすべきであるとして、今度若松警察署ならびに防犯組合から表彰を受けた。

田中君談　表彰されて実に恐縮の至りです。私は家庭の手助をする。これは私が長男という立場からいつても当然やらねばならない私の責任であると思つています。子供会は私は子供が大好きなので名ばかりのをやつていますが、子供を善導に導くというような私は能力がありませんが一生懸命努力します。このように表彰されるとただただ自分が恥かしいばかりです。

矢坂君　私は自分として当然やるべきものをやつたに過ぎないのに表彰だなんて……。穴があつたら入りたい位です。私の家は小さな弟妹がいますし、ただ兄としておぼつかないながらも義務を果しているのに過ぎません。私の外に当然表彰されるべき人々が沢山いると思つて私等は恥しいくらいです。しかし表彰を受けた以上これに位負しないようにがん張つていくつもりです。

西日本読書奨励賞に入賞す

一年保坂君

先日文部省、九州、山口、島根各県教育委員会、ＰＴＡ、教職員組合後援、第三回西日本読書奨励賞の体験、感想文の募集に一年生保坂利三君は応募して見事佳作に入賞した。同君は中学時代より既に四回入賞した体験の持主である

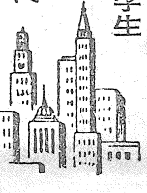
『雨蛙』発刊か

二年生有志の文芸同人雑誌を発刊したいとの気運があつたが、今秋漸く発刊されることになつた。これでわが校の同人雑誌は『まつぼつくり』と共に二種になる。なお諸君の手に入るまでには後数日間を要すとのことである。

筆滴

美術の秋ともなつて、辻久子、関西歌舞伎などが続々と来校した。また校内でも文化祭、レコード・コンサート同人雑誌の発刊などなかなか活発な文化活動を始めているのは真に喜ばしいことだ。特にに最近の放送部の動きは、中食時間、掃除時間などめざましいものがある。今後もますます発展されんことを祈るが先日の中食時間に歌謡曲が掛つていた。係員の間違いではないかと思つていたが、そうでもないらしく続けていた。これにはちよつと驚いた。ベートーベンだチヤイコフスキーだと、コンサートを開いている人達の企画だとは矛盾している。歌謡曲厳禁とはいわないが全校生徒の音楽的素養を高めようとしているのならば、少数の人達に限定されているコンサートより全校生徒の耳に間違いなく入る校内放送で、ベートーベンとまで行く必要はないが、世界の民謡位を送つた方がアピールするはずである。また受験ニユースなども関心を寄せている者ならば、既に雑誌で読んでしまつているようなものばかりで新鮮さが不足しているようだ。放送、新聞は現代人の目と耳である以上、もつと考えてよい企画のもとに重要な役割を果されんことを願つている。（Ｉ）

私の学生時代



『奥様生徒』にへきえき

教官　広渡幸子

勉学の途につくことをいわゆる笈を負つてというが、私が子供を負つて東京女子高等師範学校（現在お茶の水大学）内特設中等教員養成所に入所したのは第二次世界大戦も間近かな昭和十六年四月始めのころであつた。私共は当時中野に新設されたばかりの武蔵野母子寮に入ることになつたが、学校に行つた留守中、母子寮附属の保育所に預けられる子供達は今までやさしい祖父母や周囲の人々から父の亡い子として甘やかされて来たせいか朝早くから夕暮まで全然母親と切り離されることは可成り辛かつたらしく登校の時泣き叫びながら跡追いをして保母さんを手古ずらせたことが屢々あつた。

一方お母様学生は永い間遠ざかつていた学生生活に再びとび込んで不慣れな固いテーラードスーツに肩を凝らしたり、固い木造椅子で腰が痛くなつたり肉体的にも精神的にも時間中注意散慢に成り勝ちで打ち込んで論義を聞くことは仲々難しかつた。教授連も度々戸惑つた御様子で質問するでも『そんなに丁寧な挨拶抜きに率直になさいませ』等と注意を受けたことも記憶している。

しかし、色々な困難もわずかの間に解決しすべては流れる如く規則正しい軌道に乗るようになつた

そして暗雲低く垂れこめていた国情が遂に決裂し、太平洋戦争へと突入したのは丁度このころである。

このころから次第に物資事情が悪くなり裁縫教材も糸も衣料切符で遣り繰りしなければならなくなつたが、銀座のストツクや鐘紡、新宿のいさみ屋で生地をあさるのは楽しみだつた。

何時の時代においても学友の情ほど暖いものはない。

翌年のある大雪の日、体操の時間に球技をしていてアキレス腱を切り飯田橋の日大附属病院に入院手術して三ケ月も快くならなかつた時に退院して見ると、その間の講義をリレー式に回してノートして下さつた級友の暖い友情に接した時思わず熱い涙を流したものだつた。

お茶と生花が正課に採り入れられていたので梅鳴舎と呼ばれる純和風の宏壮な茶室が教室に当てられていたが空襲ですつかり焼けてしまつたそうである。

戦争の拡大に脅かされながら馬車馬のように日曜も休日もゆつくりない勉学一途の日々ではあつたが、秋の運動会、春の小田原遠足二年生の冬の京都旅行等回想すると楽しい憶い出も尽きない。今から考えると、現在ではできないようなことをして来ましたが若さのためでしよう。写真は当時、教材としてオーバーコートを作つた歓びを取つたものです。

他校ニュース

下駄バキの件

東筑高校では三年学年会を開いたが、その議題として『暴力の件』『脱帽』『下駄の不使用』など沢山上げられた、下駄バキの件はどこの学校でも問題となつているが、当校においては』『下駄は高校生のはき物としては不当だ』『下駄をはくと姿勢が悪くなる』等の意見があつた。

文化祭にスクエア・ダンスを

福島県、福島女子高校では文化祭を飾る一つの行事として、校内スクエア・ダンスパーテイが開催され当校生徒並びに、同窓生約千百名の参加のもとに盛大に行なわれた。

遅刻に罰金を

大阪府の某高校では八時三十分の朝礼に遅れたものに罰金を附して月三回以上遅刻したものはその者の氏名を発表、二ケ月以上続くと雑巾の持参、三ケ月では〝父兄を呼出すそうである。本校でも遅刻者が多いのでこのような制度を設けては如何？。

実弾射撃で悩む戸山高校

米軍射撃場を前にひかえている戸山高校（東京）ろ朝鮮事変勃発以来実弾射撃の銃声に悩まされているが『授業中』うるさゝて勉強が出来ない『と最近ホーム・ルームがこの問題をとり上げ、生徒委員会と職員会で銃声を止めさせるよう関係官庁その他に働きかけて欲しいと決議したが、これを契機に次第に拡がりつつある。

6ケ月払いでナショナルラジオを………
菅野ラジオ店
本町五丁目菊華通り

御旅館
ふく福
若松市新地町一　TEL二六六九番

お手軽
御食事
更科
若松市明治町一丁目
電話二一〇一番

何と云つても
写真は!!
山本寫眞館
若松市外町
TEL 4117
ヨイイナー

團體に男女共優勝

若高 男子53点 女子63点 二位戸畑

第二回若戸大会開かる

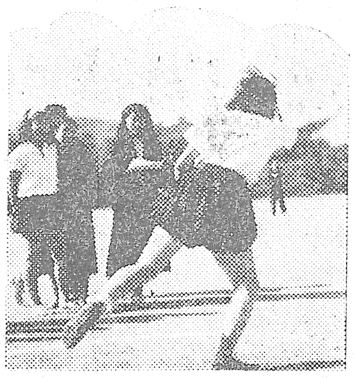
第二回若戸四校対抗体育大会は去る十一月十六日朝から快晴に恵まれ陸上四種目に新たに走幅跳、高跳、砲丸投等も加わり女子種目にも新なものが多くみられた。本校は男子五十三点、女子六十三点で共に優勝の成果をあげることが出来た。なお各校の総合点は次の通りである。

【総合得点】

（男子）
一位若松高校53点
二位戸畑高校41点
三位北筑高校24点
四位戸畑中央17点

（女子）
一位若松高校63点
二位戸畑中央高校49点
三位戸畑高校43点

以下は各種目別の成績である



籠球

▲……一年生は戸畑中央高校を11対9で破り、戸畑との優勝戦には16対9で楽勝、晴れの優勝を遂げた。

▲……二年生は第一回戦戸畑との間に白熱の接戦をくり展げ14対13で勝ち抜き戸畑中央との優勝戦には22対6という好スコアで優勝した。

▲……三年生は戸畑中央とは22対12で勝ち抜いたが優勝を掛けた戸畑との間の試合に20対0で完敗した。

庭球

前日の雨のためにコートは柔らかくグラウンドコンデションはよいとはいえなかつたが各校共に意外な実力を発揮して各試合毎に熱戦を展開した。男子よりも一般に不振であると伝えられていた女子の方が各校共特に本校においては著しい進歩の後が見受けられた。中でも本校一年女子は大きな躍進を見せて優勝した。三年男子は期待されていたが惜しくも三位になつたなお各校の順位は次の通りである

【男子】一年❶戸畑❷戸中❸若高
二年❶戸畑❷若松❸北筑、三年❶戸畑❷戸中❸若松
【女子】一年❶若高❷戸畑❸戸中
二年❶戸畑❷若松❸戸畑、三年❶
一年❶若高❷戸畑❸戸中

卓球

【男子】一年❶戸畑❷戸中❸若高
二年❶戸畑❷若高、三年❶若高❷戸中
【女子】一年❶戸中❷若高、二年❶戸中❷若高、三年❶戸中（本校戸畑棄権）

排球

男子は北校コート、女子は南校コートにて行われ、一年は男女共本校が優勝、二年は男子一位女子二位、三年は男女共二位であつた

一二三年共優勝戦は若松対戸畑で両チームとも必死のプレーを行つたが結局一二年は若松三年生は戸畑が優勝した。

ソフト

好天気に恵まれ快よい音を響かせて初めた優勝戦は一、二、三年とも若松対戸畑で両チームとも必死の奮闘にもかかわらず一、二年は若松が優勝し、三年生は練習不足のため惜しくも戸畑に敗れた

陸上 男子800継に全優勝

陸上

男子は八百継走に全学年優勝女子は比較的低調であつたが、男女共に本校は好成績をあげ、フイールドにトラックに活躍した。

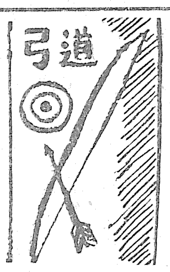
【陸上各種目】

（男子）一年 ❶戸畑高校（六十六点）❷若松高校❸北筋高校❹戸畑中央高校、二年❶若松高校（六十四点）❷戸畑高校❸北筑高校❹戸畑中央高校、三年 ❶若松高校（五十七点）❷戸畑高校❸北筑高校❹戸畑中央高校

（女子）一年❶戸畑中央高校（四十一点）❷若松高校❸戸畑高校。二年❶戸畑中央高校（四十三点）❷若松高校❸戸畑高校。三年❶戸畑中央高校（四十点）❷若松高校❸戸畑高校。

柔道

戸畑高対若松高の点取勝負は六対六で引分けとなり、いづいて行われた抜き勝負では一位は戸畑高の富嶋君にゆずつたが、全員よく奮闘して豪快な熱戦を展開した。なお抜き勝負個人順位は❶富宮（戸畑高）❷鎌田（若高）❸羽津（若高）❹久保（若高）❹塚田（戸畑）❻小川（若高）の順である。



弓道の歴史と意義

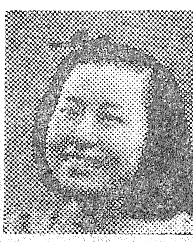
久保正刀

弓矢の発生は人類の経済生活とその発端を略々同じくするもので始めは狩猟や魚獲の具として世界の各地に使用され、それがやがて戦闘用として使われるように進展している。わが国古代新文化を持つた天つ神の降臨以前にすでにエジプト、ペルシヤ、アラビヤ、トルコ、エチオピア、アツシリヤの各地においてはそれぞれこの弓矢が利器として使用されていたことは学者の認めるところである。中国では黄帝の時（今から凡そ四五〇〇年前）揮が弓を作り牟夷が矢を造る、これが弓矢の始めであるということが史記許林に書いてあるが、わが国では神代の時代優秀な弓具が武器として存在した事は古事記、日本書記、古語拾遺、風土記などについてみてもわかる。しかしこれらの弓がいづれより伝来したものかを究めることも興味あることであろう。いづれにしてもわが祖先が使用した弓は世界に稀な特異性があつたことは注目すべきことで、（一）弓が長大であること（二）中央より下位にあること（三）発射時に弓返があることとなどである。現在使用する普通の七尺三寸の弓も長弓を使用するといわれる英国人のそれよりも長い。しかし東洋の他民族はいづれも大弓を使わずわが国の半弓のごときものである。漢の許慎の説文に『夷』という文字は『大』の字と『弓』の字を併せたもので東方の人のことであると書かれているこれによつて考えても大弓を使う日本人をさして昔は東夷と言つたことはうなずけて面白い。かくて奈良ー平安中期（八ー九世紀）頃に中国の弓道の影響を受けて弓は文化的に発展し朝廷の儀式の中にとり入れられて貴族的存在の意義が強くなつている。ところが平安朝末期において武家の擡頭とともに実用的な武器と化し室町中期（十五世紀末）より弓の研究は盛んになつて諸流派の始祖も概ねこの時代に生じている笠反流、日置流は後に雪荷派、印西派、道雪派大蔵派大和派を産んだが本多流も尾竹林派よりでている。しかるに弓道史に大きな影響を与えたのは天文十二年（十六世紀中頃）鉄砲の伝来でこれによつてこの弓矢は漸次武器としての効力を失つて行き一方一般民衆にも普及し射術は逐次進歩して行つた。江戸末期ー明治中期まで（十九世紀中ー末期）は弓道が最も衰微した時代で中には低級な娯楽の一種ともなつたが識者によりこの革正運動が展開され、明治末より大正、昭和の時代は大いに発展したが第二次大戦中は軍部より実戦に役立たないものとして圧迫されたこともあり終戦と共に学校教育の中より追放されていたけれども再びここに脚光を浴びることとなつた。この新時代のスポーツとしての弓道についてその心身に及ぼす意義特長について文部省の見解の概要を挙げれば（一）全部の筋肉の静的緊張と努力を要する（二）正しい姿勢を要する（三）正確さを要する（四）自己統制を要する（五）スポーツマンシツプを要求する（六）安全についての発達を促す（七）個人でも楽しく行うことができる（八）誰でも行うことができる（九）疲労の少い運動である（十）知的発達を図り教養を高めることができる。かくの如く弓道は古いものであり、技術的に精神的に深い研究を基としているものでその一端にふれることにより興味を助長し知的に研究する動機を作り、高尚な趣味としての教養を高めるものであることを強調したい。

会社では歴史的存在

八幡製鉄　大庭哲子

発信



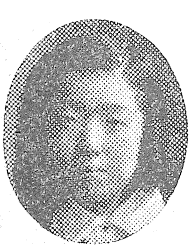
先日中央区で思いがけず出逢つた時はいいようもなく懐しかつた。貴女は女子大学生となり私はヴイジネスガールと称されるものに属するようになつた今もなお一脈通じるもののあるのはうれしい。昔机を並べていたという懐旧的な気持からでなく現在において、『話の合う』友であるために努力しているつもりです。一緒に仕事をしている十九人は皆、今年近辺の高校を出た若い人ばかりだから活気があつて華やかなうちにも何か芯のある友達が多い。それは新設された課であるために窮屈な因習もなく喧しい先輩もいない伸び伸びした環境であり、今から作り出す雰囲気が後から入つて来る後輩の方に影響するばかりでなく、新しい仕事としてIBMは社内外の注視を浴びているという緊張の故でしよう。私達はどこまでも歴史的存在だとよく討論した後などに皆一様につぶやきます。仕事自体は神経の疲れる割に積極性の無いのは事実です。でもこれは一般にいえることではないかしら。女性であるためにまだまだ職種は制限されているようですね。同じように机を並べていてもその点女子ばかりの今の環境はひがみも感じず、明るくて楽しいだけでも取柄だと思つています。私達は毎月積々の積立をしていますが図書購入もその一つ、当所では設備の届いた図書館も利用できますが、それとは別に会費を出し合つて私達の雑誌や書籍を買います。また今度から毎朝レコードをかけてダンスをすることになりました。みのりポルカセリーズ、マヅルカ等の曲が候補に上つています。運動会や内田先生が懐しく思い出されますではまた近くお見にかかりましよう。お元気で。

返信

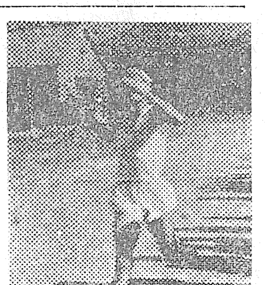
『陽のあたる場所』で自慢話

学芸大学　松尾泰子

お手紙ありがとう。八幡と若松、会社と学校と生活は変りましたがこうして手紙をやりとりすることができること、私もほんとうにうれしく思つています。相変らずはりきつているようですね。私も大分講義にも馴れ、友達もできましたので、だんだん楽しくなつてきました。ブランクの時間には陽のあたる場所に腰掛を寄せて出身校の自慢話です。このあいだ外大で行われた演劇コンクールで若高が一等になつたときは、鼻が一寸ばかり高くなつたような気持ちでした。来年の春にはまた大学合格率を競うことでしようが、威張れるような成績だといいですね。先日修学簿と称する成績表をもらいました。優良可でつけられています。中味は御想像にまかせますが、こんなものとは縁をきつたあなたがつくづく羨しくなりました。一番の楽しみは体操の時間です。一週に一時間ですが一週ごとにスクエアーダンスとソフトやバレーなど球技をしています。学校では男女の差別は全然ありませんがやはり掃除やお茶くみなどは私たちが受持つています。では今日はこれまで、恵比須祭には一日位休んででていらつしやい。



校内マラソン大会開かる



恒例のマラソン大会は、新コース（南運動場ー童子丸折返し）の下に盛大に行われた。

結果は、団体で二年B組が優勝、個人では一位田中君、二位平山君、三位山下君である。なお参加人員は五九九名、その内落伍者は五三名であつた。

（ソフト）

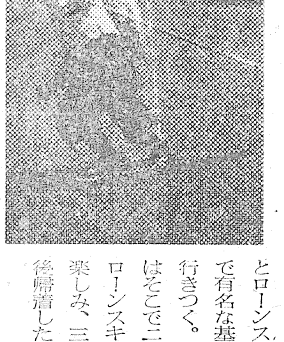
好天気に恵まれ一年は南、二、三年は北のグランドにおいて行われた、若人が情熱の吐け口を求めるかのように熱戦がくりひろげられ、他の生徒もよく応援し特に平川先生の応援は熱心であつた。熱戦の末、結局一ノ六、二ノ二、三ノ四がそれぞれ優勝した。

県大会出場権獲得

新人排球予選

去る十一月三日小倉西高校で行われた本年度最後の競技会である新人戦は参加チーム男子十四校、女子十八校が新年度の覇権を期して花々しく展開された。男子は好守備と牛島の見事なタツチに着々と得点し三回戦までは楽勝したが準決勝において強豪東筑に惜敗し三位決定戦に小倉高校を破り第三位となり県大会の出場権を得た。

山岳部 基山に登山



文化祭も終つた去る十一月二日年中行事の一環として山岳部は佐賀県にある基山登山を実施した。筑豊線原田駅下車途中三キロで福岡県と佐賀県の県境を越して行くとローンスキーで有名な基山に行きつく。一行はそこで二日間ローンスキーを楽しみ、三日午後帰着した。

受験必携　参考書多数入荷

旺文社版研究叢書各種

英語の総合的研究	赤尾好夫
英語単語熟語の総合的研究	〃
英文法の研究	古瀬良則
英語発音の研究	大西雅夫
国文の研究	吉田精一
国文学史の研究	塩田良平
現代文の研究	吉田精一
作文の研究	大城富士男
漢文の研究	阿部吉雄
国文法の研究	旺文社
解析(1)の研究	森敏雄
解析(2)の研究	河田龍夫
一般数学の研究	戸田清
化学の研究	林太郎
生物の研究	沼野井春雄
地学の研究	松沢、日高、鏑木、津室、正野共著
日本史の研究	森末義彰
世界史の研究	吉岡力

二十八年度日記と正月号雑誌が到着しました

文ちゃん書店 ◆ 愛読者の店 ◆ 西海堂

本町五丁目　TEL3917　本町五丁目　TEL2415

専門店

高級紳士服
学生服　専門

カメヤ洋服店

本町三丁目
電話四二一六番

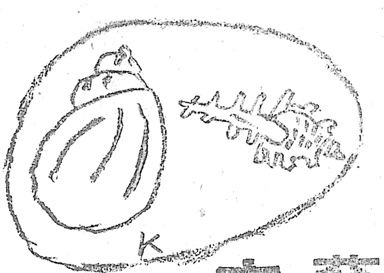
お買物は親切で
買い良い
百貨店

柏

丸柏

新しい電話番号（代表）3231 3232 3233 3234 3235

われらの文藝



カットは秋貞先生筆「かい」

白秋祭によせて

原級にとどまった天才詩人

山田輝彦

▽……金の酒をつくるは……
▽……かなしき父のおもいで……
▽……するどき歌をつくるは……
▽……その児の赤き哀歓。『思い出』…

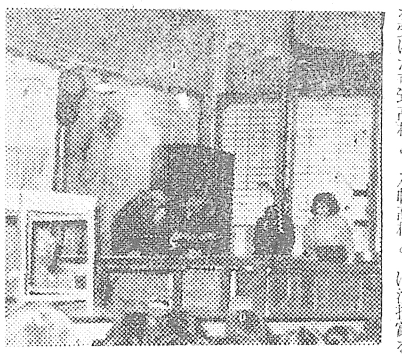
民族精神の深い地層を貫流する清冽な水脈を掘り起し、根源の情緒に正確な言葉を与え、ある時は印象派風の絢爛たる色彩を以て、ある時は水墨の淡彩を以て、民族の生を美しい抒情詩に結晶せしめた詩人、豊饒な語彙と底光りのする感覚を以て無常流転の生の哀歓をあえかな韻律に定着せしめた詩人、その情緒性と音楽性の全き結合において、藤村に始まる近代詩の歴史が最も美しい開花を示した詩人、それは白秋であった。

処女詩集『邪宗門』において彼は思い切り豪華絢爛たる南蛮趣味の色感を詩の世界に導入した。異国憧憬の浪漫主義はここに『紅』を主調とした目のくらむようなシンフォニーを奏でる。本格的象徴詩創造への野心を示す華々しい出発である。第二詩集『思ひ出』において、彼の方向は一転して幼年期の回想の世界へ向う。本格的詩への道は意外に早く挫折した。彼のように情緒と感覚にすがる詩人にとって、抒情小曲こそその本質にふさわしい詩型である。『思ひ出』――それは素材と技法と資質が完全にマッチしたところに生れる比類なく美しい結晶であった。

一世の学匠上田敏は、この詩集の出版祝賀会の席で『柳河の詩人白秋を崇拝する』と激賞した。『思ひ出』は柳川の風土から咲き出た花である。彼の幼年期を育くんだ柳川は、縦横に貫流する水路に浮いた『灰色の棺』のようなさびれた町である。水面には音もなく柳がしだれ、酒蔵の白いなまこ壁が影を映し、ウオーターヒヤシンスの群落が広がり、赤い入日の照り返す干潟には、異様なムツゴロウがはい回り、南蛮語めいた強い訛の土語がひびく。この異常な風土の中で、感じやすい彼の皮膚と霊は、赤い首筋の昼の螢に驚き、おはぐろとんぼの黒い翅の震えをいとしみ、彼岸花の赤さに感傷するその幼年の日の哀愁と歓喜と、ほのかな性の芽生えと心のときめきを、彼は民謡調のやわらかい詩語とフランス象徴詩風の光つた感覚によって表現した。はじめて『思ひ出』を読んだ少年の日のこの感動を私は今も忘れることができない。第三詩集『東京景物詩』は、古い江戸と新しい東京の交錯の中に、明治末期の東京の都会情緒を歌つた官能詩であるが、既にここには著しい歌謡への傾斜が見られ、民謡詩人としての後日を約束する。これに処女歌集『桐の花』を加えて、初期白秋の世界を形成する四つの作品は、すべて鮮烈な感覚と情緒による詩史を画する名品であり、これらの作品に彼の全才能はあますところなく開花した。ただ彼が本格的詩人というよりも本質的に歌謡と小曲の詩人であつたのは、彼における知的なものの完全な欠落によるものであり、ここに白秋詩の限界の一つを認めることは、以後の詩の前進のためにも必要なことであろう。

一世の頽唐詩人白秋が没したのは昭和十七年十一月二日であり、今年は柳川で十年忌を機会に白秋祭が花々しく催された。その日、永い間の念願がかなつて、初めて私は柳川を訪れた。白秋の生家や『帰去来』の詩碑を訪ね、水路のほとりに佇んでしみじみと水の匂いをかいだ。遺品展には白秋の学籍簿があつたが、数学はじめほとんど落第点で、下の方に『原級』と明記してあつた。天才はいつも学校教育の手におえないものであるらしい。筑後秋の陽は白々と空にかかり。筑後平野は豊饒な稔りをうたい、言葉の錬金術師といわれた一世の鬼才の忌日にふさわしい日であつた。世塵にまみれた胸に久し振りに十年前の新鮮な感動が蘇えつた。ああ あの日の純一な意志と清冽な情感を再びわれにあらしめよ

西日本 演劇コンクールに優勝



北九州外国語大学主催の第三回高等学校演劇コンクールが去る十一月八日、九日の両日にわたつて北九州外国語大学講堂で開かれた。本校としては初出場で先日の文化祭で演じられた〝修学旅行〟が出された。偶然にも昨年度第二回高校演劇コンクールにおいて第二位を受けた東筑高校と、八幡高校との三高校の競演となつたが外大教授、劉寒吉、河原重已氏らの審査員による脚本、演本、演技、装置等各部にわたつての審査の結果他校を凌いで団体賞第一位の晴れの栄冠を獲得し、新分野における若高の誇高き伝統を築きあげた。なお個人賞として二年の爪生良介君は演技賞を得、その前途は大いに期待されている。同君に喜びの感想を聞いてみよう。

談　私達の〝修学旅行〟が一位になつたのは全く意外でした。少々上つていて大きなミスをやつたので諦めていたのですが――一位になつた一番大きな原因は、よく纏つていた（決してうまくはないが）という所が認められたのではないかと思つています。いずれにしても私達の現実の生活を通してまたその中でお芝居を創り上げていこうとする一番大切なものが理解されたという事は非常に力強くもつともつと頑張ろうという自信を強くしました。

「文化活動さかん」

歌舞伎を観賞

去る十一月十一日の午後一時から二回にわたり、本校南講堂において、関西大歌舞伎嵐璃珏一行十五名を招き、在校生、市内中学生を集めて『歌舞伎鑑賞会』を開いた。古典芸術鑑賞会の高橋氏の解説で『壺坂霊験記』三幕『沢市』『お里』に扮した嵐利角、上村吉彌の熱演に、時ならぬ芝居気分にひたり、二時間にわたつて、足のしびれるをもみながら古典芸術を鑑賞した。

作曲コンクール

音楽部では今回新に発足した部の結成に因んで広く全校より作曲を募集する。作詞は山田先生に依頼して居り、それに基ずいて作曲を一部形式かまたは二部形式で募集する。作品は明年一月十日より受付を開始し審査には大西先生及び音楽部と作詞の山田先生が当たり入選三編を選んで作曲者には薄謝を呈することになつている。

「生きる」

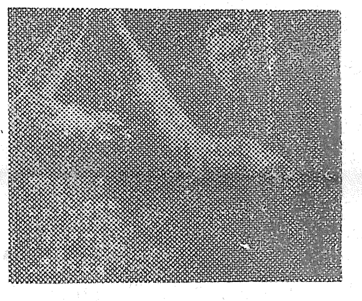
志村小田切の対象的効果

『羅生門』に相次ぐ黒沢明監督の『生きる』は『お茶漬の味』『稲妻』『慟哭』に次いで邦画界に一段と光明を投げかけた。

胃癌を宣告されて後半年しか命が持たないと知つたミイラの様な老市×

×民課長（志村喬）がワラをも掴みたい気持で〝生〟を求め始める。ある時は失望して自暴酒を飲み、ある時は息子の愛情にさがろうとするが見離さ☆

☆れて結局同役所の小田切みきが『生きる』とはどんな事であるかを教えて呉れる。そして誰も振向きもしない公園完成の難事業をやつてのける『生きる』という事が一老課長の問題だけではなく大きく人間の問題として受けとられ日常無意識の内に生を送つている我々にとつて熟考させられるものがある。またその中に役所に依然として見られるロボット式事務も現実に対しての批判があり、息子夫婦の家族制度の冷淡なアプレ的考え方等ありのままに描かれ、あり苦笑を禁じ得ない所である。いわゆる青春スターの登上がないだけにこれだけヒットしたという所に黒沢の情熱と技術が証明されている。『酔いどれ天使』以来、黒沢ものは技術よりも情熱の方が先に走つて印象的がどぎつく、ギラギラした覇気が後味に残つたが今度のは志村と一身同体になつて一段と進歩を見せている志村の胃癌振りはじつとり肺腑をえぐるものがあり、殊に〝ゴンドラの唄〟は印象的であつた。新人の小田切は病身の志村の対照的効果が出て役柄にピッタリしていた。



マラソンに賞品を寄付

PTA接待副委員長の菅野さん

北九州マラソン界において伝統的な強みを示す本校において、選手はもちろん全生徒であるが、それが全生徒に行きわたることの必要なのはもちろんのことであるが、本校において毎年十一月に行なわれる全校マラソン大会でその労をねぎろうため、僅かな賞品でも多くの生徒に与へたいと三年間続けてその賞品の世話を一人で本校に関係のある商店や、マラソンコースとされる付近の商店、同窓会を回り学校に送つたものである。

その主旨としては、長距離を力走した人に、その労をねぎろうため僅かな賞品でも多くの生徒に与えたいという考えである。

三年三組菅野君のお母さんである市内菊華町菅野春子さんがその人で、現在若高のPTA接待副委員長をして居られる。

保健室から

十月は外傷の多い月

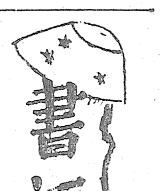
―衛生講座―

保健衛生は私達が日常生活に最も深い関係を持つている事です。身体的に精神的にまた社会的に健全であつてこそ、本当に健康の歓びを知る事が出来ます。皆さんは保健についてはもういろいろ習得されていると思いますが、もう一歩それを日常生活に繰り込み、にじみ込ましていただきたいと思います。廊下に紙屑が散らかつている。窓下に硝子の破片が落ちている、ふみ板の釘、痰を窓外や道路上に吐く等、常識では考えられない事を平気で見たり行つたりしている皆さんです。自分一人のためではなく公衆衛生という事を考える必要があります九月、十月は運動も盛んな月ですが、外傷が多かつたようです。一寸した不注意のために大怪我をしたり習慣性として何時も怪我をしている人もあります。良い環境の学校をもつ皆さんの通学にぜひ徒歩をおすすめします。歩く事は自然に心臓も強くなり体の新陳代謝も行われて知らぬ間に強い体になります。先日の若戸対校競技も他校よりずつと勝れていましたし、昨年より平均身長体重（次回で発表します。）も殖えて来ました。自分の体を知つておく事は必要です。時には健康診断も忘れないようにして下さい。

衛生室・高橋

R・B・C発足

本校放送部においてはかねてから内容も充実して来た放送部にコールサインのないのは寂しいとコールサインの募集を立案中であつたが、この度それを募集した結果多数の応募作品中、審査の結果永野先生のR・B・C（REKIRYO・BRODCAST・CLUB）が見事当選、今後放送部はR・B・Cとして発足することになつた。なおR・B・Cにおいては広く生徒諸君の利用を要望している。



『人間のしるし』

C・モルガン

初版は今大戦の真中、フランスにて深夜叢書の一冊として発刊されたものでベルコールの『海の沈黙』と共に代表的な抵抗文学である。書中の主人公ジャンはその妻クレールへの愛に溺れ二人だけの幸福のみを願つている。彼は前戦で捕虜となり非人間的な収容所の生活に入る、そこでたまたま妻の幼なじみでありジャンの友人であるジャツクに会う事になるがジャツクは祖国への愛、平和への愛を抱きつつ病死する。やがてジャンは帰国してふみにじられた祖国の現状をまのあたりに見せつけられた時、収容所で淋しく死亡した友人の言葉の真実であつた事を知り、平和を守るために、善良な大衆を守るために、妻と共に献身運動を始める。彼はやがてゲシユタツポに連行されて妻もまた連行される。軍国主義の亡霊が再現されつつある現在、われわれは如何にあるべきかをこの書物は教えてくれるだろう。

岩波現代書　二百円

進適模擬行わる

去る十一月二十三日、日曜日三年生と二年生の希望者を交えて南校舎において進学適正検査模擬が八時半から十二時半にわたつて行われた。なお本検査は十二月十六日行われる予定である。

どうやら二十二号も発刊できました。今年は本号でうちきり、来年にもう二号発刊の予定です。

○　○　○

四面には秋の文化特集として白秋祭その他をあつめました。

今号から部員を二倍に増強し、部員一同よい新聞をつくるために一生懸命はげんでおります。

文芸部から寄稿していただきました小説『チャンピオン』は都合により記載いたしません。作者には大変申し訳ありませんがまたこの次の機会に回さしていただきます。

天下一の店
アベ金物店
ここにくれば金物なら…………
何でもそろう………
本町五丁目

学用品の事なら
下の売店へ!!
釜崎文具店
若高前

信用のある店◇◇◇
履物の百貨店◇◇◇
室矢履物店
丸柏前

写真器具
写真材料は
D・P・E・
三星写真工房
大井戸通一丁目